

安芸太田町人口ビジョン

【改訂版】

令和7年3月改訂

安芸太田町

目次

はじめに	1
I 人口の現状	
1. 総人口	2
2. 人口構造	2
3. 人口動態	
(1) 人口増減	4
(2) 自然動態（出生、死亡）	5
(3) 社会動態（転入、転出）	7
II 将来人口の推計	
1. 将来人口シミュレーションの設定	10
2. 将来人口シミュレーションの結果	
(1) 将来人口の推計結果（総人口）	11
(2) 将来人口の推計結果（年齢3区分別）	12
III 将来展望に必要な調査・分析	
1. 「人口移動に関するアンケート調査」	
(1) 調査の概要	16
(2) 調査結果の概要	16
2. 「わたしのまちづくりアンケート調査（一般）（中学生）（高校生）」	
(1) 調査の概要	21
(2) 調査結果の概要	21
3. アンケート調査結果のまとめ	23
IV 人口の将来展望	24

はじめに

○位置付け

「安芸太田町人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を尊重し、本町における人口の現状等の分析を行い、人口減少に関する町民との意識を共有するため、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

本ビジョンは、まち・ひと・しごと創生に資する効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となるものであり、これを踏まえて、「安芸太田町総合ビジョン」及び「第3期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、各施策を展開してまいります。

○対象期間

安芸太田町人口ビジョンの対象期間は令和37（2055）年とします。

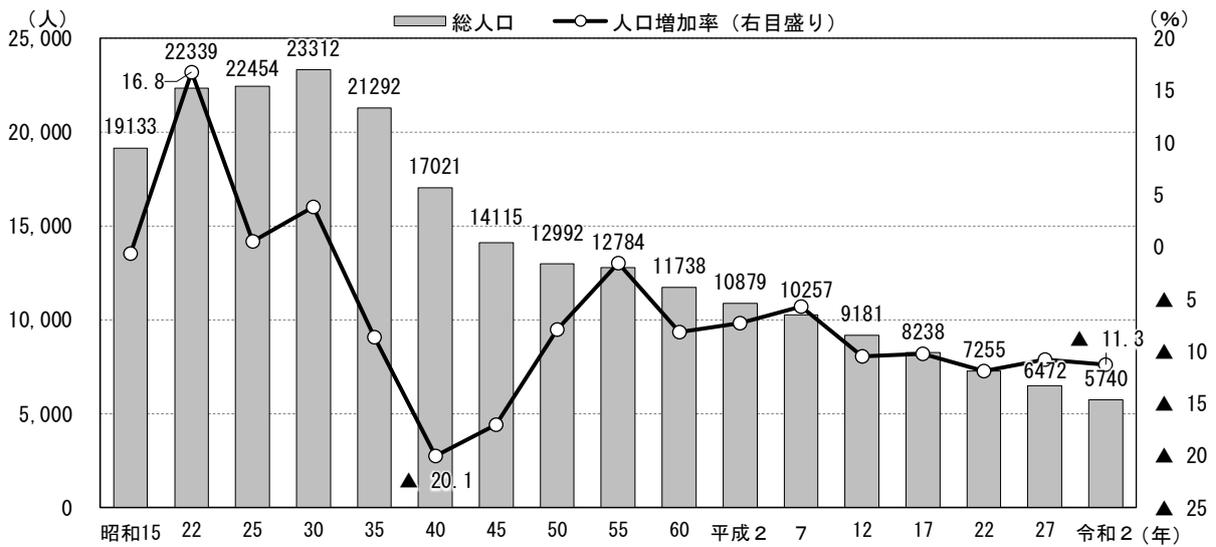
I 人口の現状

1. 総人口

本町の総人口は、昭和30（1955）年にピークを迎え、減少に転じました。

令和2（2020）年の国勢調査人口は5,740人で、平成27（2015）年から11.3%減少しました。

図表 I - 1 総人口の推移（昭和15年から令和2年）

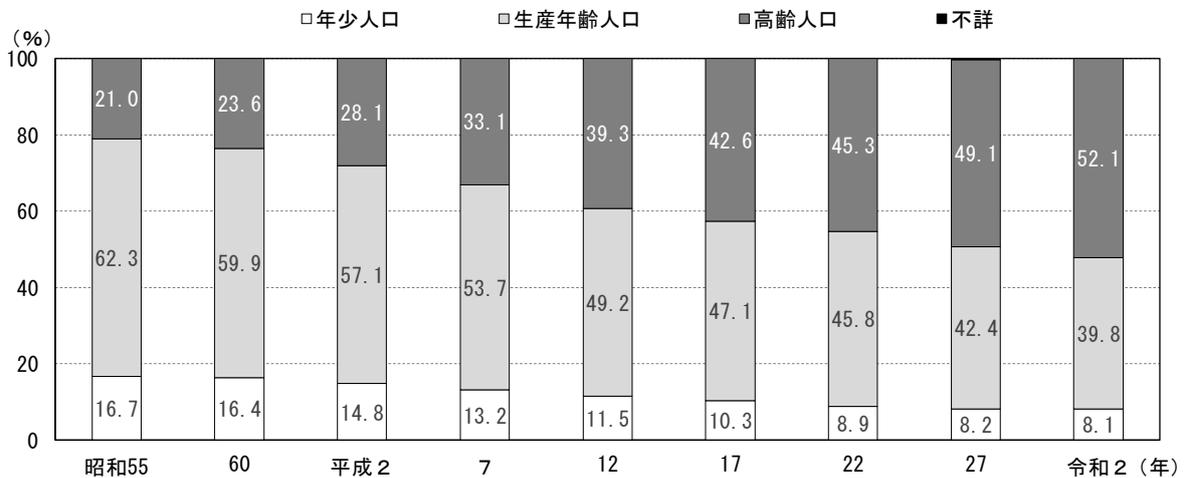


資料：総務省「国勢調査」

2. 人口構造

昭和55（1980）年以降、本町の高齢人口（65歳以上）比率は一貫して上昇し、生産年齢人口（15歳から64歳）比率と年少人口（0から14歳）比率は一貫して低下しています。

図表 I - 2 年齢3区分別人口比率の推移（昭和55年から令和2年）

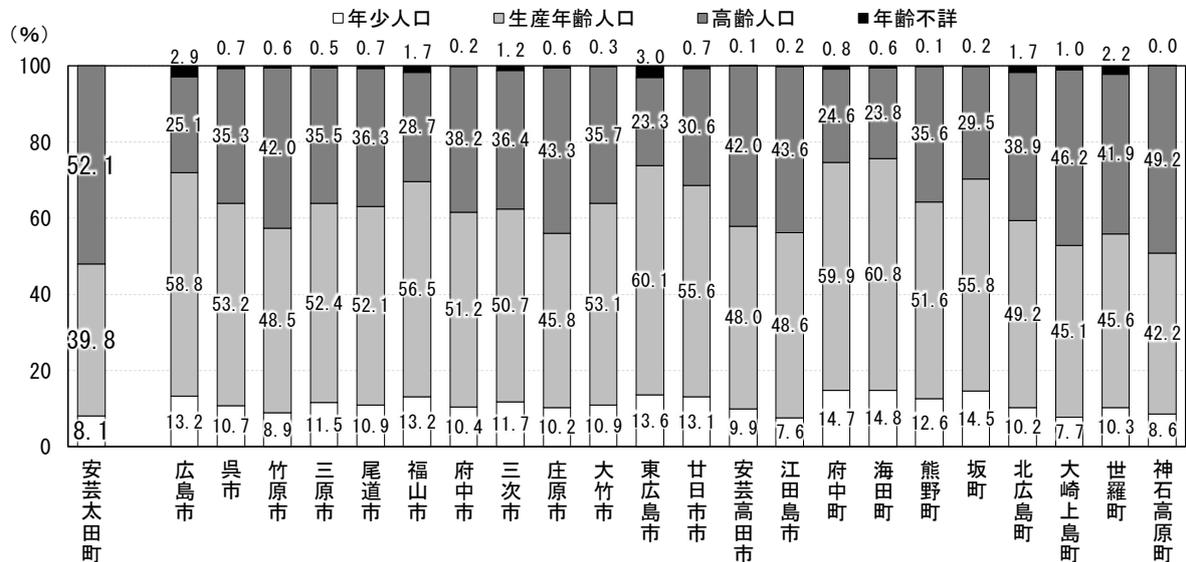


資料：総務省「国勢調査」

令和2（2020）年の年齢3区分別人口比率を広島県内市町と比較すると、本町の高齢人口比率（高齢化率）は52.1%で、広島県内で最も高くなっています。

一方、本町の生産年齢人口比率は39.8%で、広島県内で最も低くなっています。

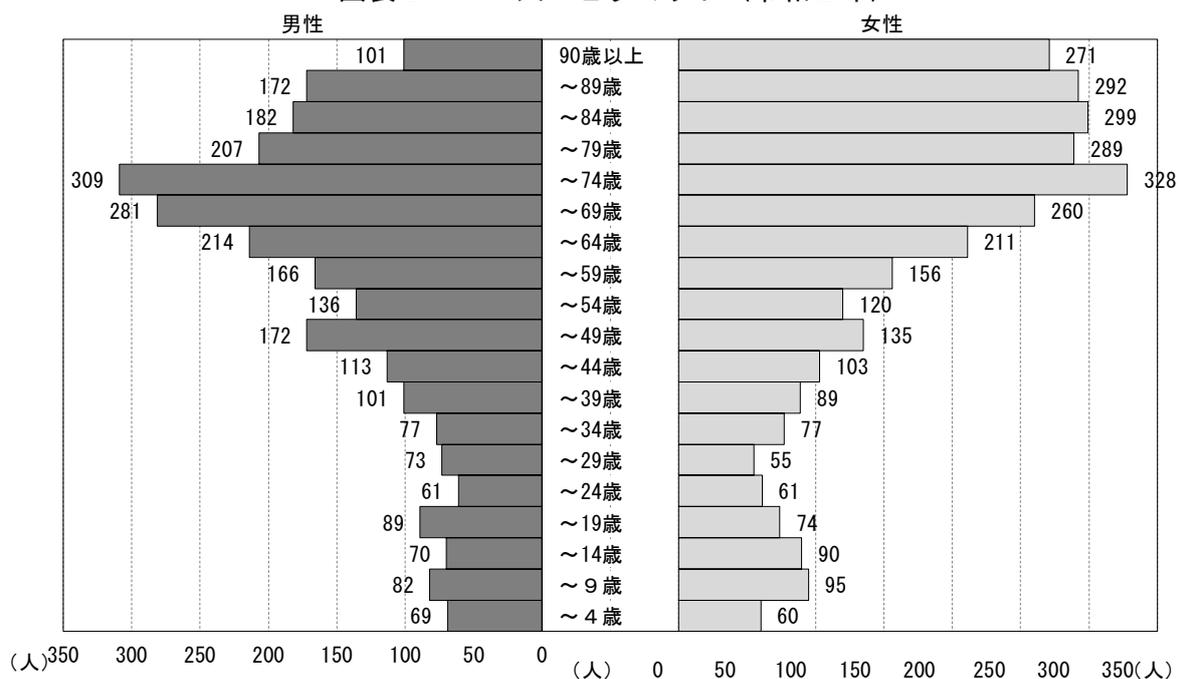
図表 I - 3 年齢3区分別人口比率の広島県内市町との比較（令和2年）



資料：総務省「国勢調査」

縦軸に年齢を低い順から5歳刻みにとり、横軸に男女別の年齢別人口をとったグラフ（人口ピラミッド）を作図すると、本町では少子高齢化の進展を反映した「壺型」となっていることが確認できます。

図表 I - 4 人口ピラミッド（令和2年）



資料：総務省「国勢調査」

3. 人口動態

(1) 人口増減

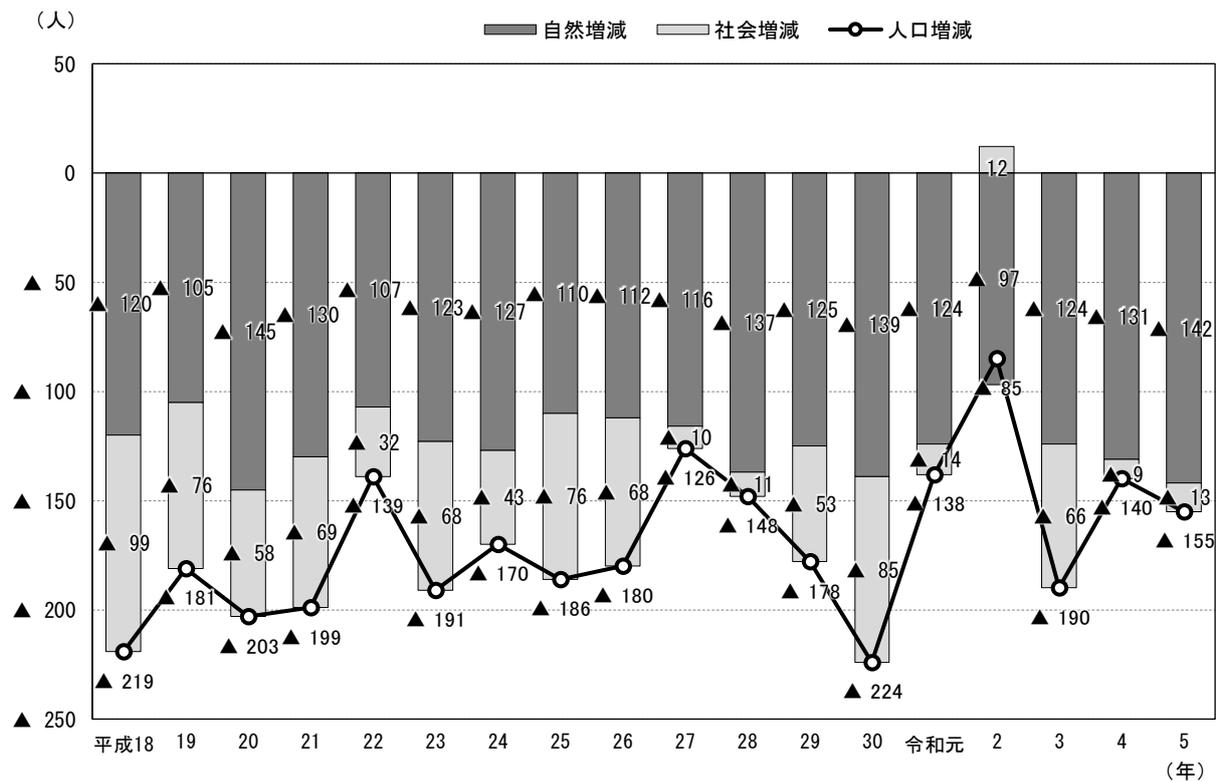
令和5（2023）年の本町の自然増減（出生数－死亡数）は142人の減少、社会増減（転入数－転出数）は13人の減少で、合計した人口増減は155人の減少となっています。

近年では、自然増減の減少による、人口増減への影響が大きくなっています。しかしながら、自然増減は、本町の人口構造を強く反映しているため、政策によって減少に歯止めをかけることは困難です。

一方、社会動態は、増加となった年もあるなど、年ごとのばらつきが多く、政策に取り組む余地があると考えられます。

これらのことから、本町の人口減少に歯止めをかけ、一定数の人口を維持するためには、転入者を増加させ、転出者を減少させるための取り組みが必要です。

図表 I - 5 自然増減、社会増減、人口増減の推移（平成18年から令和5年）



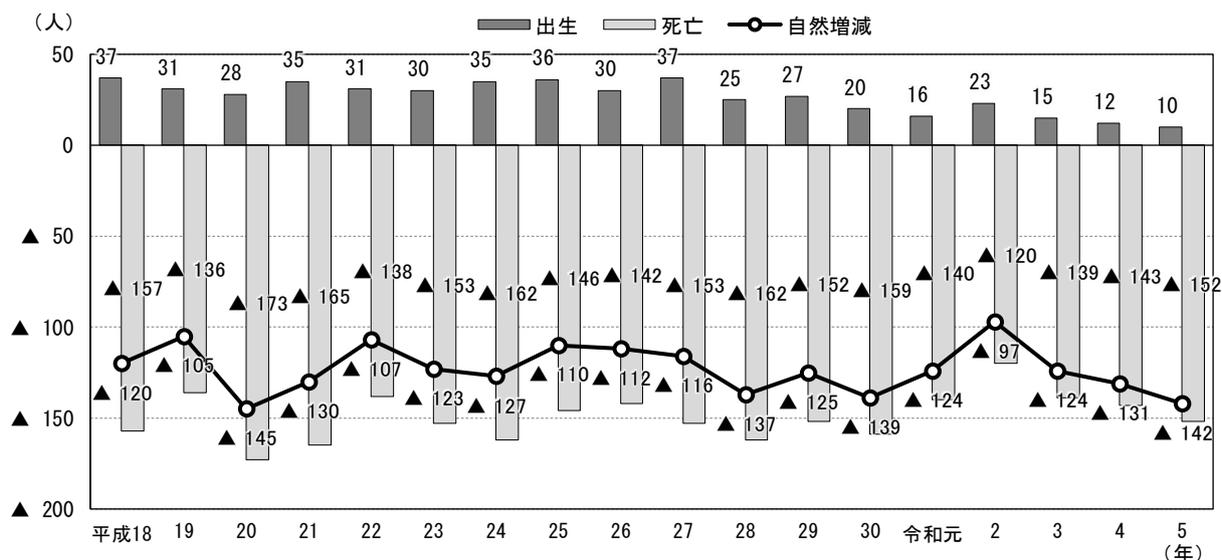
(注) 前年10月1日から当年9月30日までの人口移動を集計した。
資料：広島県「広島県人口移動統計調査」

(2) 自然動態（出生、死亡）

①出生、死亡、自然増減の推移

近年、本町では死亡数が出生数を大きく上回っています。令和2（2020）年を除いて、自然増減は100人以上の減少で推移しています。

図表 I - 6 出生、死亡、自然増減の推移（平成18年から令和5年）



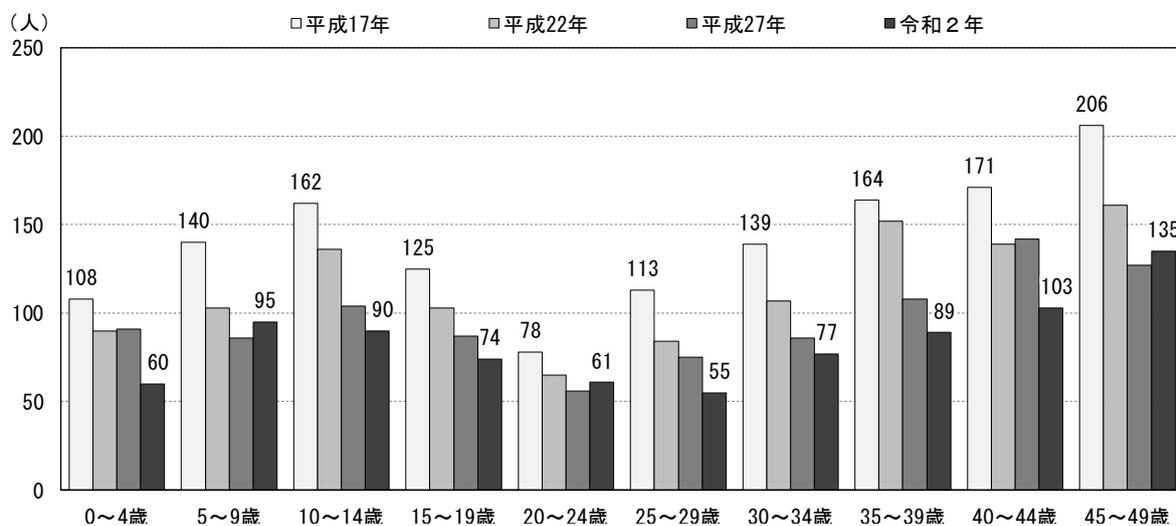
(注) 前年10月1日から当年9月30日までの人口移動を集計した。

資料：広島県「広島県人口移動統計調査」

②年齢階級別女性数の推移

出生数への影響が大きい年齢階級別女性数の推移をみると、多くの年齢階級で減少傾向にあります。また、他の年代に比べて20代の数が少なく、「お椀型」のグラフとなっています。

図表 I - 7 年齢階級別女性の推移（平成17年から令和2年）

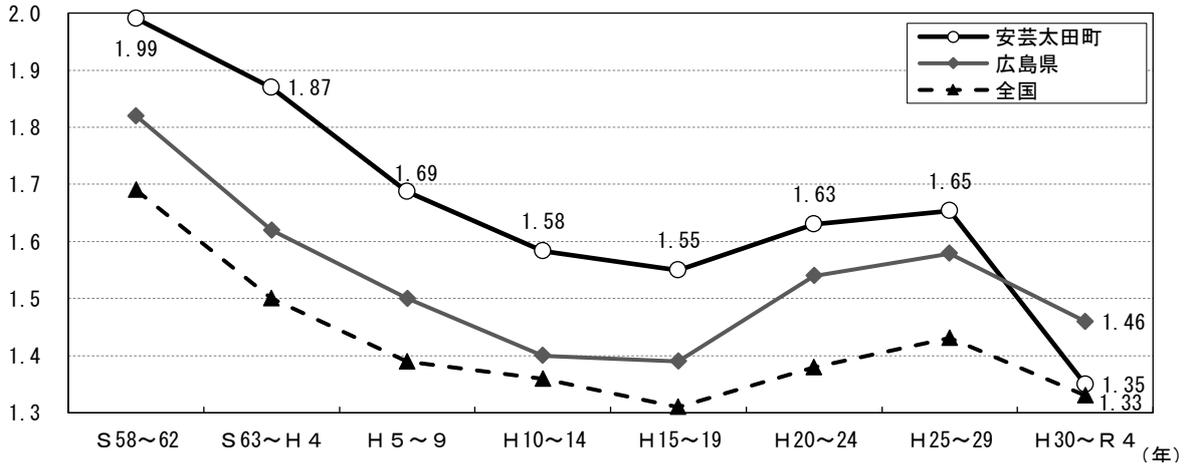


資料：総務省「国勢調査」

③合計特殊出生率の推移と広島県内市町との比較

「昭和 58 (1983) 年～62 (1987) 年」以降減少傾向にあった本町の合計特殊出生率は、「平成 20 (2008) 年から 24 (2012) 年」に増加に転じたものの、「平成 30 (2018) 年～令和 4 (2022) 年」には 1.35 と大きく減少し、広島県を下回り全国並みの水準となりました。

図表 I - 8 合計特殊出生率の推移
(安芸太田町、全国、広島県、昭和 58 年から令和 4 年)

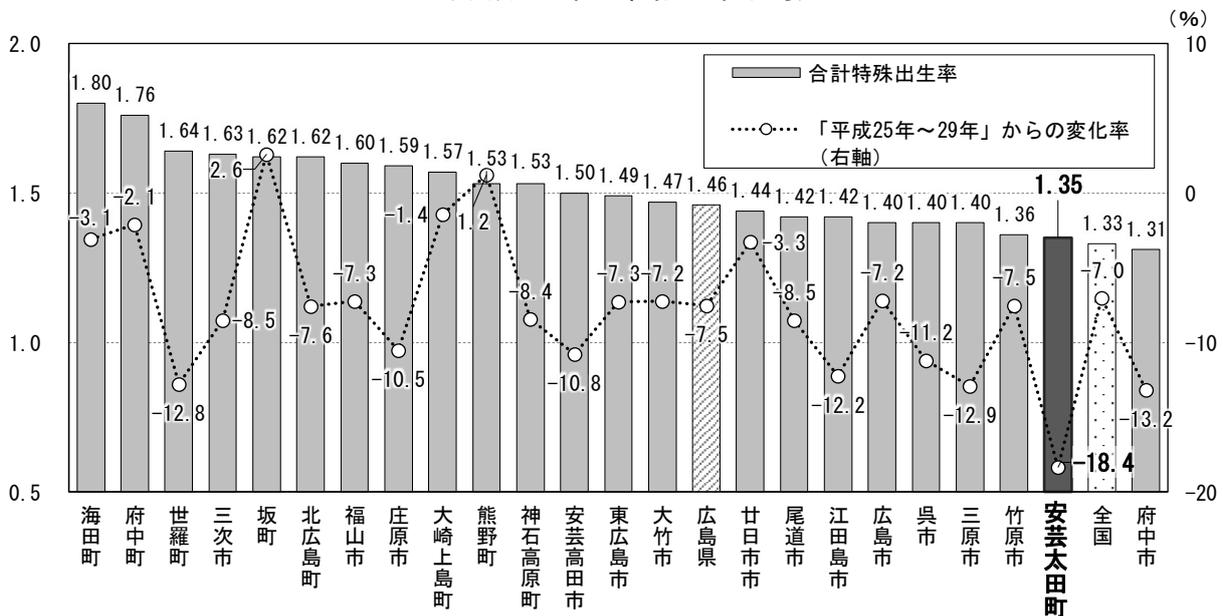


(注) 1. 合計特殊出生率とは、「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」を表す指標。ここでは、偶然変動の影響を減少させた安定性の高いベイズ推定値の 5 年平均値を用いた。
2. 「平成 10 (1998) 年から 14 (2002) 年」以前の安芸太田町の値は、加計町、筒賀村、戸河内町の各年の合計特殊出生率をそれぞれの 15～49 歳女性数で加重平均した値。

資料：厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

「平成 30 (2018) 年～令和 4 (2022) 年」の本町の合計特殊出生率は、広島県内で 2 番目に低い値となっています。また、「平成 25 (2013) 年～29 (2017) 年」からの変化率をみると、本町の減少率が顕著に高くなっています。

図表 I - 9 合計特殊出生率の広島県内他市町との比較
(平成 30 年～令和 4 年平均)



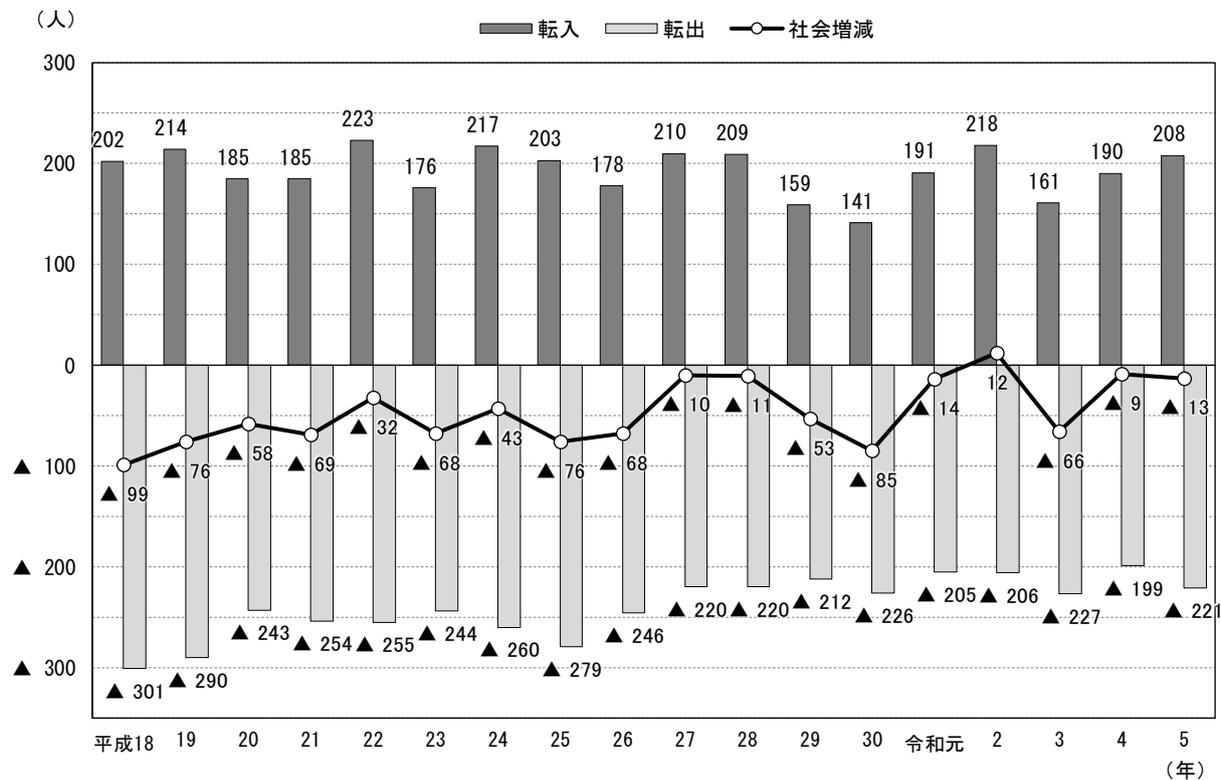
(注) 資料：厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

(3) 社会動態（転入、転出）

① 転入、転出、社会増減の推移

社会増減は減少の年が多いものの、年によってばらつきが大きくなっています。

図表 I - 10 転入、転出、社会増減の推移（平成 18 年から令和 5 年）



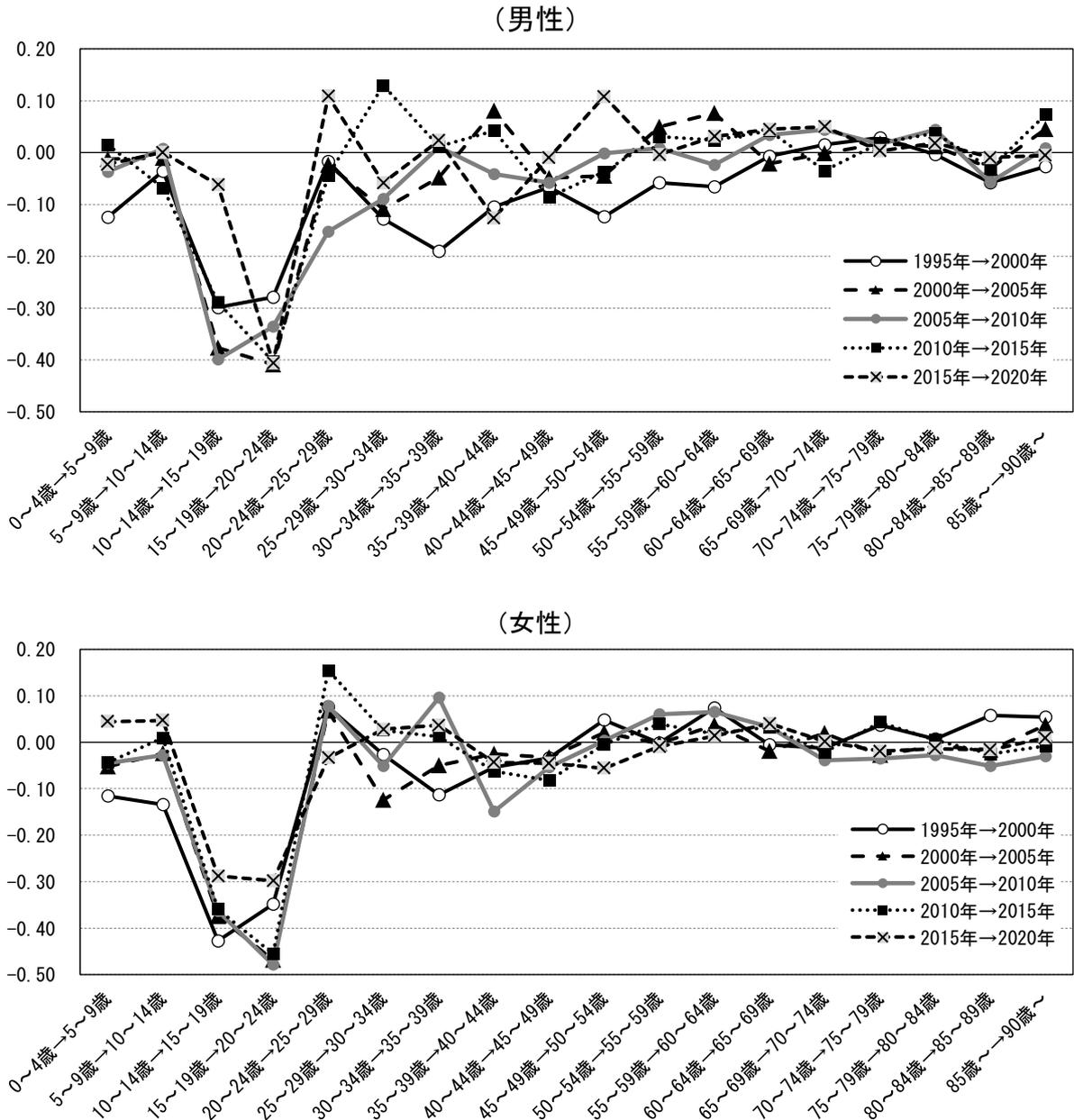
(注) 前年 10 月 1 日から当年 9 月 30 日までの人口移動を集計した。
資料：広島県「広島県人口移動統計調査」

②男女別年齢階級別純移動率の推移（平成7年から令和2年）

本町の社会動態の傾向を確認するため、横軸に5歳階級別人口をとり、縦軸に平成7（1995）年から令和2（2020）年における男女別年齢5歳階級別純移動率（転入数と転出数の差を人口で割った値）をとったグラフを作図しました。

男女ともに、進学にあたる時期（10～14歳が15～19歳になる時期）と進学・就職にあたる時期（15～19歳が20～24歳になる時期）に大きな転出超過となっています。

図表 I - 1 1 純移動率（平成7年から令和2年）



(注) 純移動率とは転入数と転出数の差を人口で割った値で、プラスは転入超過、マイナスは転出超過を示す。
資料：内閣府「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ（令和6年4月版）」

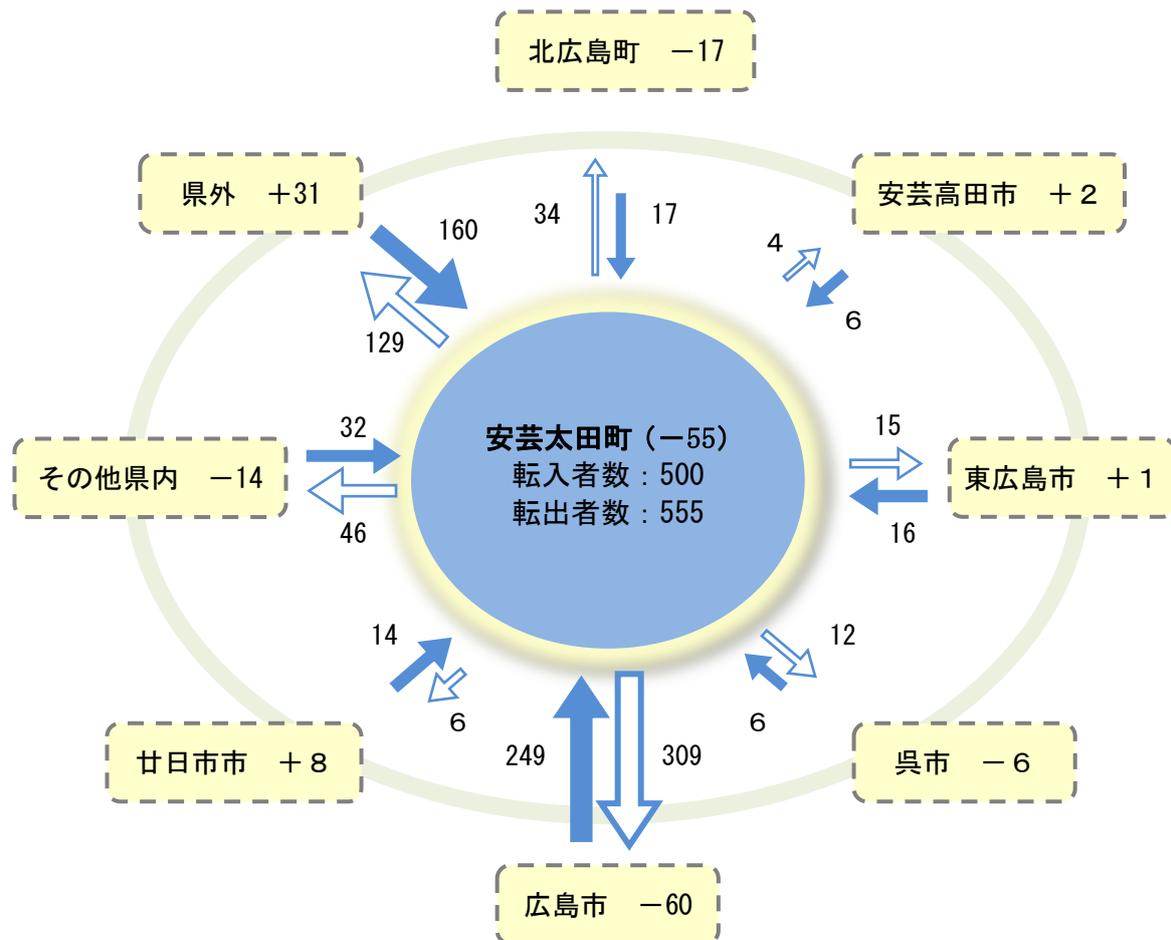
③他自治体への人口移動の状況（平成 27 年から令和 2 年）

平成 27（2015）年から令和 2（2020）年における他自治体への人口移動の状況を見ると、本町全体で転入者が 500 人、転出者が 555 人で、55 人の転出超過となっています。

転出・転入ともに、広島市との間の移動が大半を占めています。また、広島市へは 5 年間で 60 人の転出超過が生じています。

その他では、北広島町への転出超過がやや大きく、県外からは転入超過となっています。

図表 I - 1 2 近隣自治体への人口移動（平成 27 年から令和 2 年）



資料：総務省「国勢調査」

Ⅱ 将来人口の推計

1. 将来人口シミュレーションの設定

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」をベースとして、4パターン（図表Ⅱ－1）のシミュレーションを行いました。

図表Ⅱ－1 将来人口シミュレーションのパターン

【各パターンの特徴】

シミュレーション	特徴
パターン①社人研推計準拠	「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」準拠。
パターン②出生率上昇	合計特殊出生率が令和12（2030）年までに1.80、令和22（2040）年までに人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.07）まで上昇したと仮定。
パターン③社会増減均衡	人口移動が令和12（2030）年までに概ね均衡した（転入・転出数が同数となり、移動がほぼゼロとなった）と仮定。
パターン④出生率上昇 ＋社会増減均衡	合計特殊出生率が令和12（2030）年までに1.80、令和22（2040）年までに人口置換水準まで上昇し、かつ人口移動が令和12（2030）年までに概ね均衡したと仮定。

【各パターンの合計特殊出生率の仮定】

	年										
	令和2 (2020)	令和7 (2025)	令和12 (2030)	令和17 (2035)	令和22 (2040)	令和27 (2045)	令和32 (2050)	令和37 (2055)	令和42 (2060)	令和47 (2065)	令和52 (2070)
パターン①	1.81	1.73	1.78	1.83	1.83	1.84	1.85	1.91	1.91	1.89	1.89
パターン②	1.81	1.73	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
パターン③	1.81	1.73	1.78	1.83	1.83	1.84	1.85	1.91	1.91	1.89	1.89
パターン④	1.81	1.73	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

2. 将来人口シミュレーションの結果

(1) 将来人口の推計結果（総人口）

4パターン別の将来人口（総人口）の推計結果を図表Ⅱ－2にまとめました。

図表Ⅱ－2 将来人口シミュレーションの結果（総人口）



【実数】

(人)

	年										
	令和2 (2020)	令和7 (2025)	令和12 (2030)	令和17 (2035)	令和22 (2040)	令和27 (2045)	令和32 (2050)	令和37 (2055)	令和42 (2060)	令和47 (2065)	令和52 (2070)
パターン①	5,740	5,067	4,449	3,906	3,427	2,982	2,595	2,259	1,965	1,711	1,483
パターン②	5,740	5,062	4,445	3,907	3,439	3,003	2,614	2,275	1,978	1,725	1,502
パターン③	5,740	5,122	4,587	4,132	3,747	3,397	3,102	2,849	2,628	2,447	2,293
パターン④	5,740	5,122	4,589	4,141	3,771	3,436	3,140	2,884	2,663	2,487	2,342

【2020年=100とした指数】

	年										
	令和2 (2020)	令和7 (2025)	令和12 (2030)	令和17 (2035)	令和22 (2040)	令和27 (2045)	令和32 (2050)	令和37 (2055)	令和42 (2060)	令和47 (2065)	令和52 (2070)
パターン①	100	88	78	68	60	52	45	39	34	30	26
パターン②	100	88	77	68	60	52	46	40	34	30	26
パターン③	100	89	80	72	65	59	54	50	46	43	40
パターン④	100	89	80	72	66	60	55	50	46	43	41

パターン①は最も人口減少が大きく、令和 52(2070)年の総人口は 1,483 人で、令和 2 (2020) 年から 74%減と推計されました。

パターン②はパターン①とほぼ同様です。令和 52 (2070) 年の総人口は 1,502 人で、令和 2 (2020) 年から 74%減と推計されました。現在の本町の人口構造の影響が根強いいため、出生率が上昇（自然増減の減少幅が縮小）したとしても、令和 52 (2070) 年までの将来人口に与える影響は小さいと想定されます。

パターン③は 2 番目に人口減少が小さくなっています。令和 52 (2070) 年の総人口は 2,293 人で、令和 2 (2020) 年から 60%減と推計され、パターン①と比較して 800 人程度の増加となっています。出生率上昇に比べ、社会増減均衡による令和 52 (2070) 年までの将来人口への影響が大きいと想定されます。

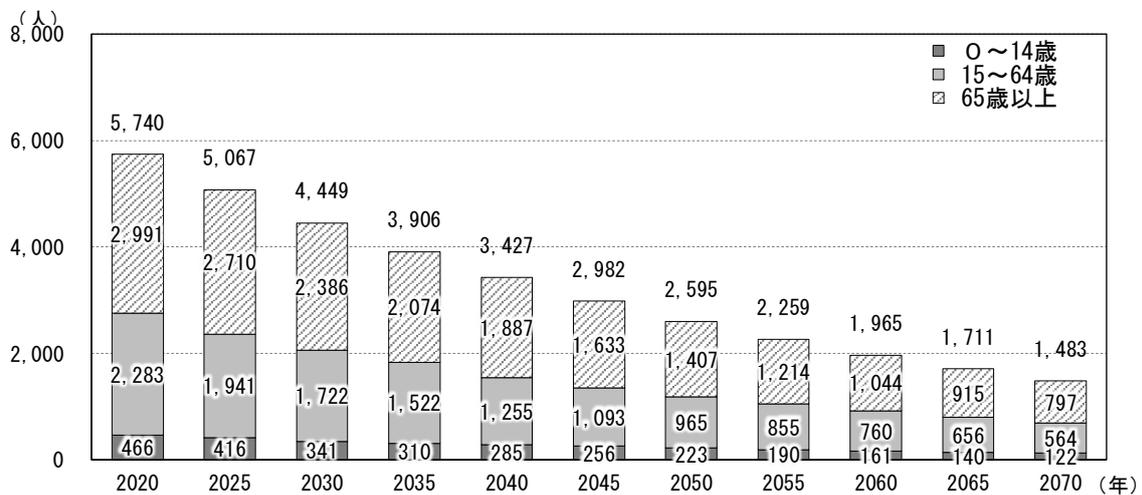
パターン④は最も人口減少が小さくなっています。令和 52 (2070) 年の総人口は 2,342 人で、令和 2 (2020) 年から 61%減と推計され、パターン③とほぼ同様です。

(2) 将来人口の推計結果（年齢 3 区分別）

①パターン①社人研推計準拠

パターン①の年齢 3 区分別将来人口の推計結果は図表Ⅱ-3の通りです。人口構造は令和 2 (2020) 年から大きな変化はありません。

図表Ⅱ-3 将来人口シミュレーションの結果（年齢 3 区分別、パターン①）



【人口比率】

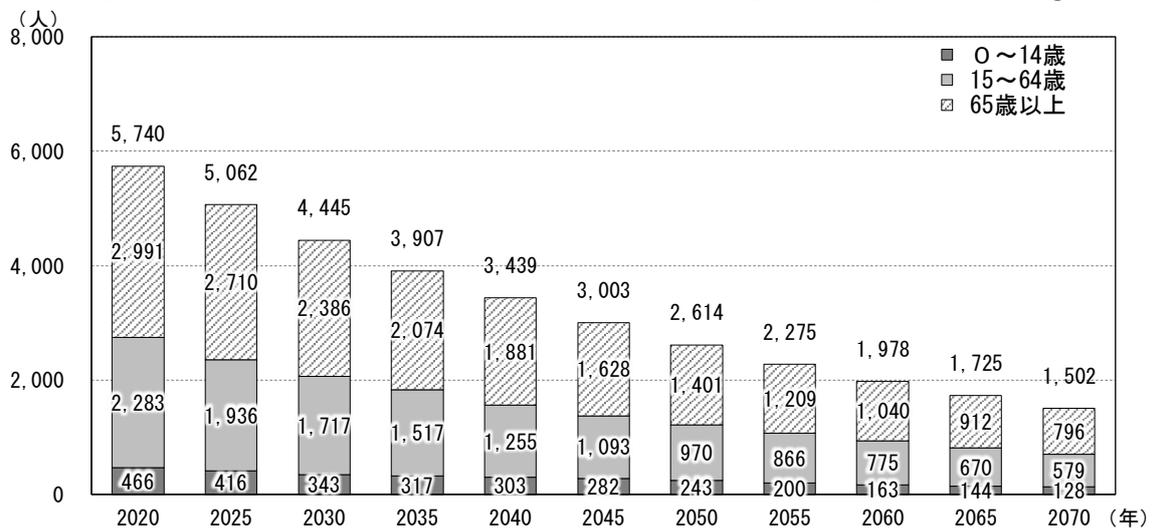
(%)

	年										
	令和 2 (2020)	令和 7 (2025)	令和 12 (2030)	令和 17 (2035)	令和 22 (2040)	令和 27 (2045)	令和 32 (2050)	令和 37 (2055)	令和 42 (2060)	令和 47 (2065)	令和 52 (2070)
0～14 歳	8.1	8.2	7.7	7.9	8.3	8.6	8.6	8.4	8.2	8.2	8.2
15～64 歳	39.8	38.3	38.7	39.0	36.6	36.6	37.2	37.9	38.7	38.4	38.0
65 歳以上	52.1	53.5	53.6	53.1	55.1	54.8	54.2	53.7	53.1	53.5	53.8

②パターン②出生率上昇

パターン②の年齢3区分別将来人口の推計結果は図表Ⅱ－４の通りです。人口構造はパターン①と同様に、令和2（2020）年から大きな変化はありません。

図表Ⅱ－４ 将来人口シミュレーションの結果（年齢3区分別、パターン②）



【人口比率】

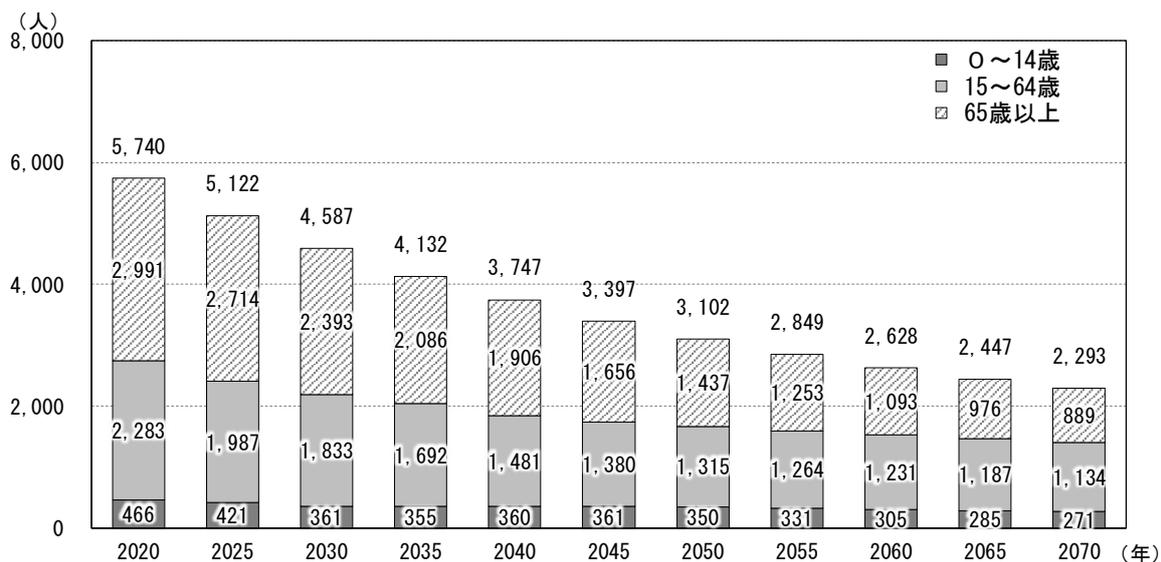
(%)

	年										
	令和2 (2020)	令和7 (2025)	令和12 (2030)	令和17 (2035)	令和22 (2040)	令和27 (2045)	令和32 (2050)	令和37 (2055)	令和42 (2060)	令和47 (2065)	令和52 (2070)
0～14歳	8.1	8.2	7.7	8.1	8.8	9.4	9.3	8.8	8.3	8.3	8.5
15～64歳	39.8	38.2	38.6	38.8	36.5	36.4	37.1	38.1	39.2	38.8	38.5
65歳以上	52.1	53.5	53.7	53.1	54.7	54.2	53.6	53.1	52.6	52.9	53.0

③パターン③社会増減均衡

パターン③の年齢3区分別将来人口の推計結果は図表Ⅱ－5の通りです。生産年齢人口（15歳から64歳）比率と年少人口（0から14歳）比率が上昇し、高齢人口（65歳以上）比率が低下していきます。令和37（2055）年には、生産年齢人口比率が高齢人口比率を上回ります。

図表Ⅱ－5 将来人口シミュレーションの結果（年齢3区分別、パターン③）



【人口比率】

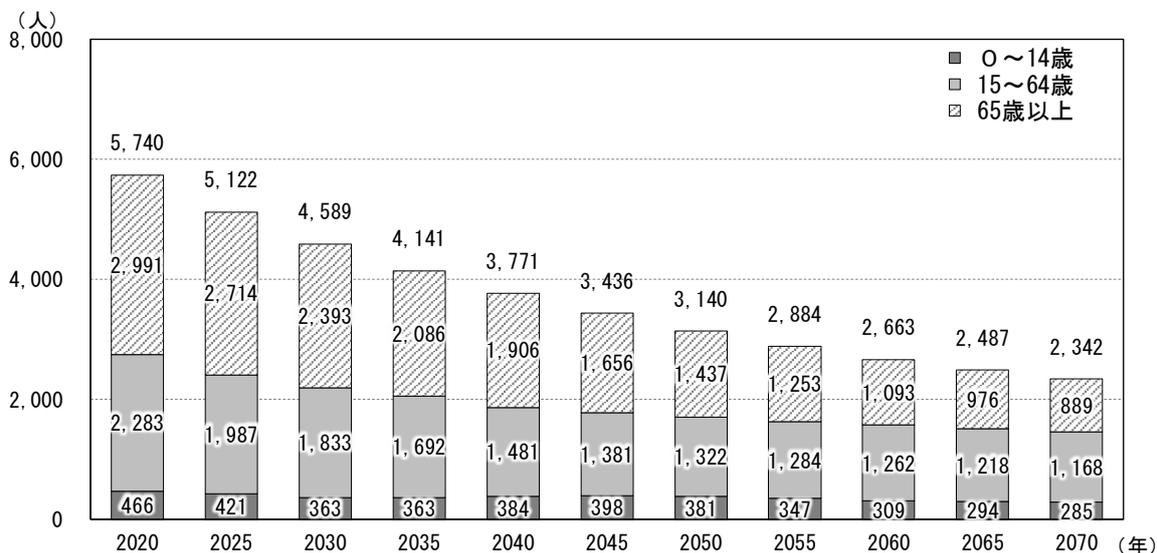
(%)

	年										
	令和2 (2020)	令和7 (2025)	令和12 (2030)	令和17 (2035)	令和22 (2040)	令和27 (2045)	令和32 (2050)	令和37 (2055)	令和42 (2060)	令和47 (2065)	令和52 (2070)
0～14歳	8.1	8.2	7.9	8.6	9.6	10.6	11.3	11.6	11.6	11.6	11.8
15～64歳	39.8	38.8	40.0	40.9	39.5	40.6	42.4	44.4	46.8	48.5	49.4
65歳以上	52.1	53.0	52.2	50.5	50.9	48.8	46.3	44.0	41.6	39.9	38.8

④パターン④出生率上昇＋社会増減均衡

パターン④の年齢3区分別将来人口の推計結果は図表Ⅱ－6の通りです。人口構造はパターン③と同様に推移します。

図表Ⅱ－6 将来人口シミュレーションの結果（年齢3区分別、パターン④）



【人口比率】

(%)

	年										
	令和2 (2020)	令和7 (2025)	令和12 (2030)	令和17 (2035)	令和22 (2040)	令和27 (2045)	令和32 (2050)	令和37 (2055)	令和42 (2060)	令和47 (2065)	令和52 (2070)
0～14歳	8.1	8.2	7.9	8.8	10.2	11.6	12.1	12.0	11.6	11.8	12.2
15～64歳	39.8	38.8	39.9	40.9	39.3	40.2	42.1	44.5	47.4	49.0	49.9
65歳以上	52.1	53.0	52.2	50.4	50.5	48.2	45.8	43.4	41.0	39.2	37.9

Ⅲ 将来展望に必要な調査・分析

本町において実施した「人口移動に関するアンケート調査」、「わたしのまちづくりアンケート調査（一般）（中学生）（高校生）」から、移住・定住等に関する状況や意識について整理しました。

1. 「人口移動に関するアンケート調査」

（1）調査の概要

調査の概要は図表Ⅲ－1の通りです。

図表Ⅲ－1 調査の概要

調査名	安芸太田町人口移動に関するアンケート調査
調査対象	県内からの転入・転出届出者（窓口による任意調査）
調査時期	令和元（2021）年度から令和5（2023）年度

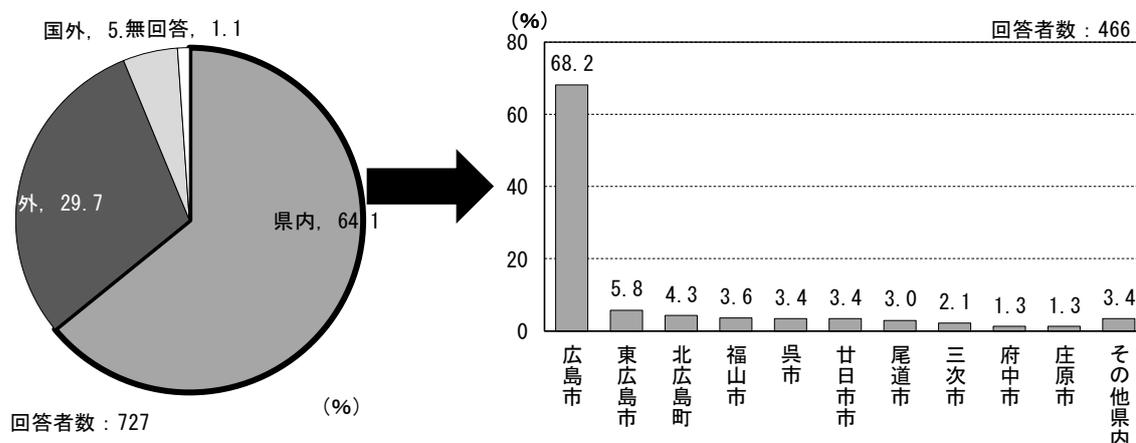
（2）調査結果の概要

①転入者について

i) 転入前の居住地

広島県内からの転入者が64.1%を占めます。その内の約70%が広島市からの転入です。

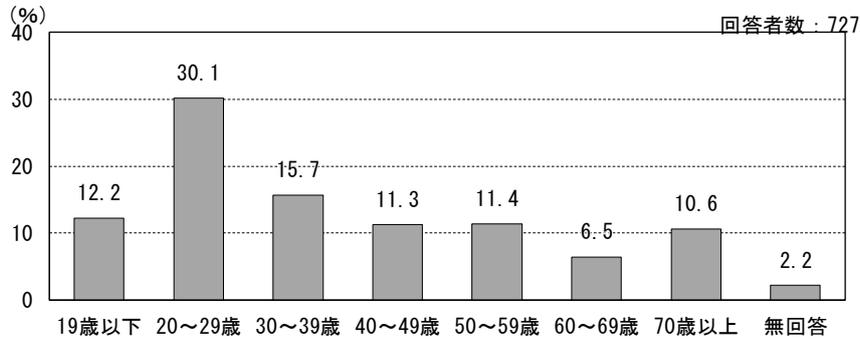
図表Ⅲ－2 転入前の居住地別転入者割合（令和元年度から令和5年度）



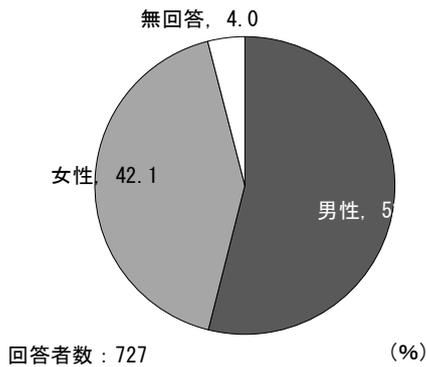
ii) 転入する世帯主の年代、性別、世帯人数

世帯主（移動の主な要因となった人）の年代は、20代が30.1%と最も高くなっています。性別は男性が女性をやや上回っています。世帯人数は単身世帯が80%以上を占めています。

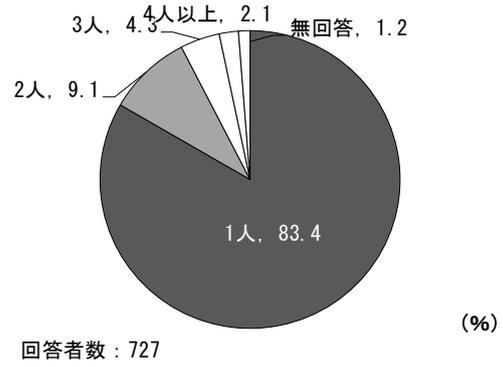
図表Ⅲ－3 転入する世帯主の属性（令和元年度から令和5年度）
（年代）



（性別）



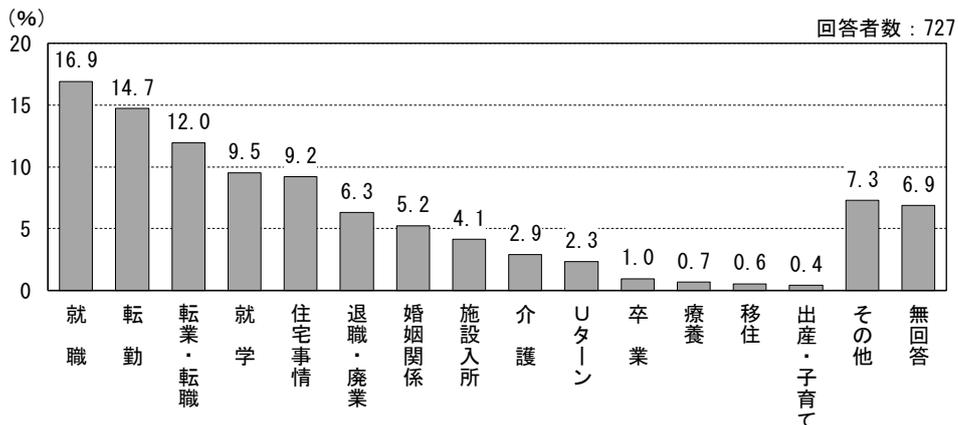
（世帯人数）



iii) 転入理由

本町への転入理由は、「就職」が16.9%と最も高く、次いで「転勤」(14.7%)、「転業・転職」(12.0%)となっています。

図表Ⅲ－4 安芸太田町への転入理由（令和元年度から令和5年度）

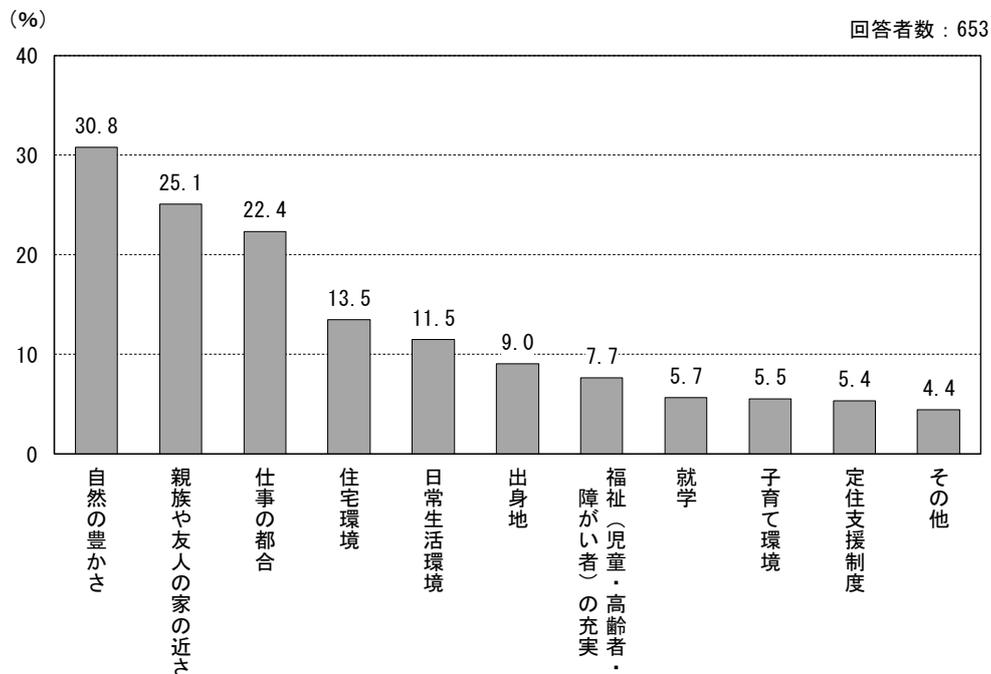


(注) 1. 複数回答の質問のため、各回答の割合の合計が100%を超える。
2. 「その他」の自由記述内容を類型化し、集計に加えた。

iv) 転入先に安芸太田町を選んだ理由

転入先に安芸太田町を選んだ理由は、「自然の豊かさ」が30.8%と最も高く、次いで「親族や友人の家の近さ」(25.1%)、「仕事の都合」(22.4%)となっています。

図表Ⅲ－5 転入先に安芸太田町を選んだ理由（令和元年度から令和5年度）



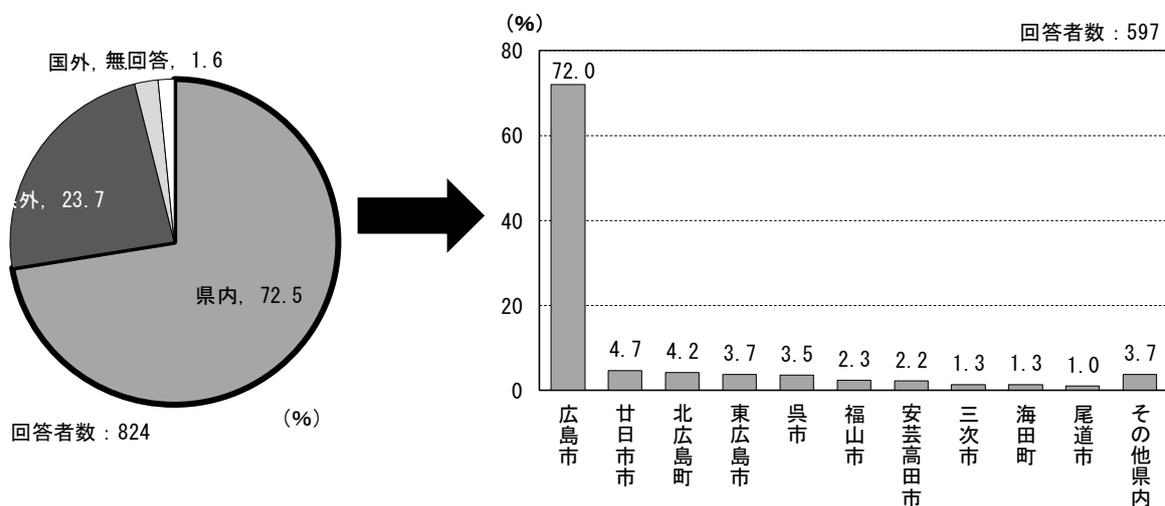
- (注) 1. 複数回答の質問のため、各回答の割合の合計が100%を超える。
 2. 「無回答」を除く。
 3. 「その他」の自由記述内容を類型化し、集計に加えた。

② 転出者について

i) 転出先の地域

広島県内への転出者が72.5%を占めています。その内の約70%が広島市への転出です。

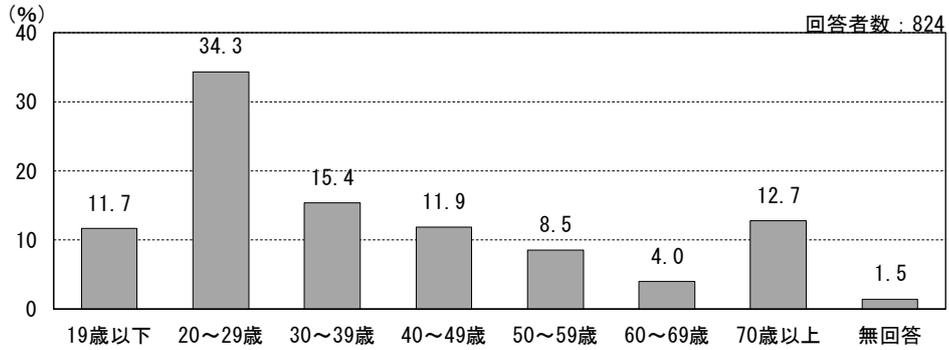
図表Ⅲ－6 転出先地域別転出者割合（令和元年度から令和5年度）



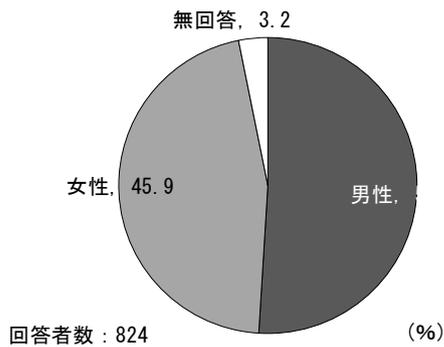
ii) 転出する世帯主の年代、性別、世帯人数

世帯主（移動の主な要因となった人）の年代は、20代が34.3%と最も高くなっています。性別は男性が女性をやや上回っています。世帯人数は単身世帯が85%を占めています。

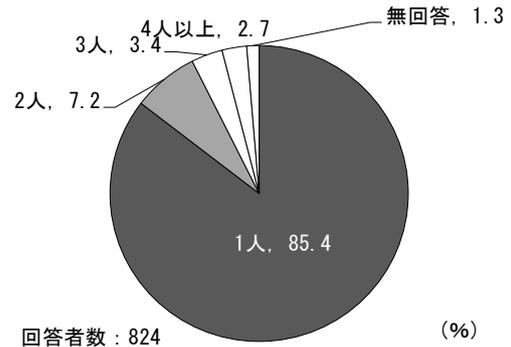
図表Ⅲ－7 転出する世帯主の属性（令和元年度から令和5年度）
（年代）



（性別）



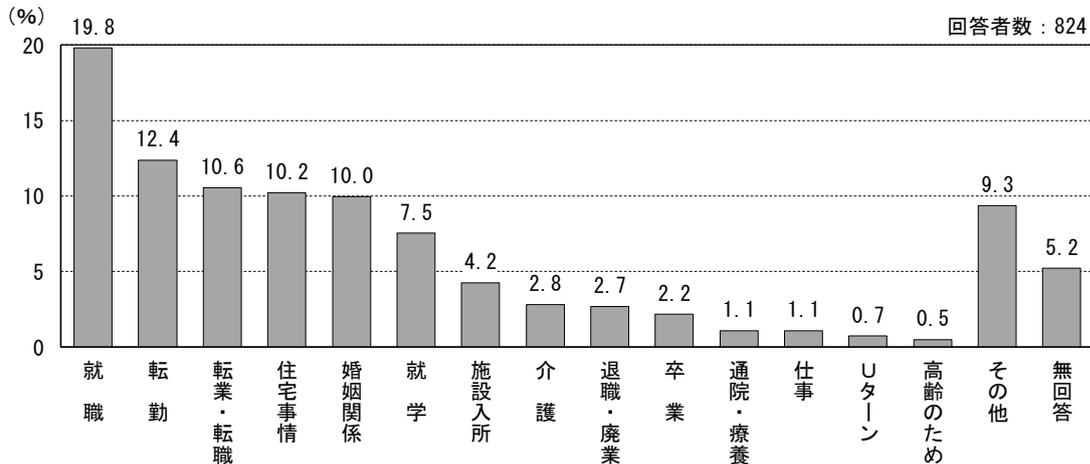
（世帯人数）



iii) 転出理由

本町からの転出理由は、「就職」が19.8%と最も高く、次いで「転勤」（12.4%）、「転業・転職」（10.6%）となっています。

図表Ⅲ－8 安芸太田町からの転出理由（令和元年度から令和5年度）

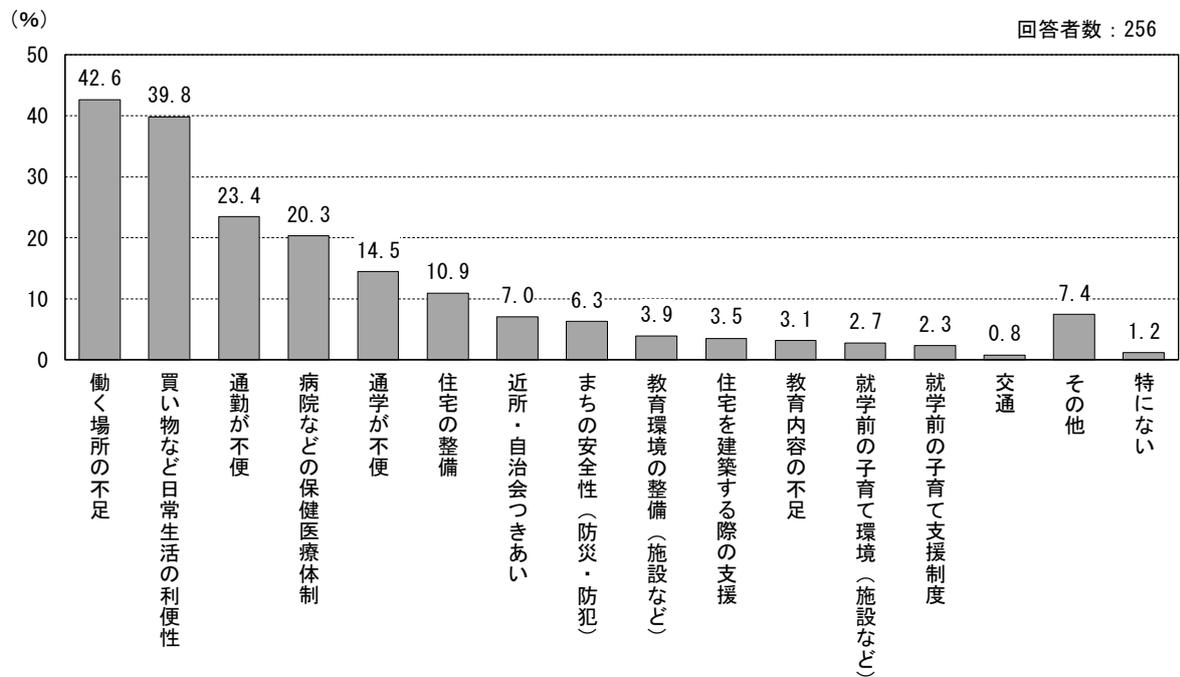


(注) 1. 複数回答の質問のため、各回答の割合の合計が100%を超える。
2. 「その他」の自由記述内容を類型化し、集計に加えた。

iv) 安芸太田町に改善を強く望む点

安芸太田町を暮らしやすいまちにするために改善を強く望む点は、「働く場所の不足」(42.6%)、「買い物など日常生活の利便性」(39.8%)が顕著に高くなっています。

図表Ⅲ－9 安芸太田町に改善を強く望む点（令和元年度から令和5年度）



- (注) 1. 複数回答の質問のため、各回答の割合の合計が100%を超える。
 2. 「無回答」を除く。
 3. 「その他」の自由記述内容を類型化し、集計に加えた。

2. 「わたしのまちづくりアンケート調査（一般）（中学生）（高校生）」

（1）調査の概要

調査の概要は図表Ⅲ－１０の通りです。

図表Ⅲ－１０ 調査の概要

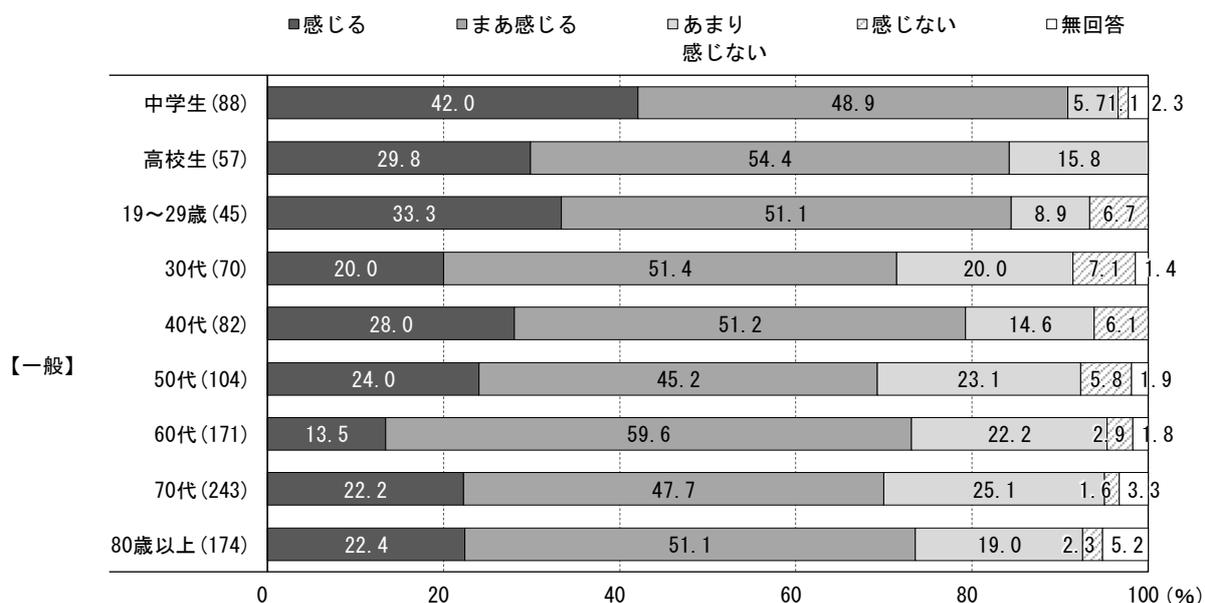
①	調査名	わたしのまちづくりアンケート調査（一般）
	調査対象	町在住の19歳以上の一般住民2,500人（無作為抽出）
	調査日程	令和6（2024）年1月12日から1月29日
	回収結果	回答数900件（回答率36%）
②	調査名	わたしのまちづくりアンケート調査（中学生）
	調査対象	町内中学校に通学する全生徒94人
	調査時期	令和6（2024）年1月
	回収結果	回答数88件（回答率94%）
③	調査名	わたしのまちづくりアンケート調査（高校生）
	調査対象	加計高等学校に在籍する全生徒104人
	調査時期	令和6（2024）年1月
	回収結果	回答数67件（回答率64%）

（2）調査結果の概要

①安芸太田町に誇りや愛着を感じるかについて

29歳以下の若い世代で、「感じる」（「感じる」「まあ感じる」の合計）が80%以上と高くなっています。

図表Ⅲ－１１ 安芸太田町に誇りや愛着を感じるかについて



（注）中学生調査は「安芸太田町に魅力を感じますか。」

②「安芸太田町の魅力」や「誇りに思うこと」

すべての年代で「自然環境」が顕著に高く、次いで「景観」となっています。

図表Ⅲ－１２ 「安芸太田町の魅力」や「誇りに思うこと」

	中学生	高校生	一般							
			19～29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	
回答数	88	67	45	70	82	104	171	243	174	
回答割合	自然環境	77.3	80.6	66.7	67.1	69.5	64.4	64.3	55.6	36.8
	景観	28.4	29.9	28.9	27.1	20.7	27.9	29.2	16.0	13.8
	都市との近接性	0.0	0.0	11.1	15.7	18.3	13.5	15.2	11.5	10.9
	人のつながり	14.8	19.4	4.4	4.3	17.1	12.5	10.5	10.7	12.1
	やすらぎ	14.8	7.5	17.8	5.7	14.6	5.8	8.8	7.8	5.2
	人柄のよさ	15.9	11.9	8.9	2.9	9.8	9.6	5.3	5.8	4.0
	農産物	3.4	1.5	4.4	2.9	4.9	5.8	5.8	9.1	3.4
	人情	2.3	4.5	11.1	7.1	2.4	3.8	1.8	5.3	6.9
	林業資源	1.1	0.0	0.0	4.3	2.4	6.7	2.9	6.2	4.0
	文化	9.1	11.9	6.7	15.7	3.7	7.7	3.5	2.9	1.1
	歴史	1.1	3.0	4.4	8.6	4.9	3.8	3.5	3.7	3.4
	特産品	4.5	0.0	0.0	2.9	2.4	1.0	5.3	3.7	5.7
	もてなしの心	0.0	3.0	13.3	1.4	2.4	1.9	1.2	2.1	4.0
	水産資源	0.0	1.5	2.2	4.3	1.2	2.9	2.3	4.1	0.6
	コミュニティ※	12.5	13.4	0.0	0.0	4.9	1.9	3.5	1.2	2.3
	その他	2.3	0.0	2.2	1.4	1.2	1.9	1.8	0.4	0.0
無回答	2.3	3.0	2.2	5.7	3.7	9.6	12.3	22.2	39.1	

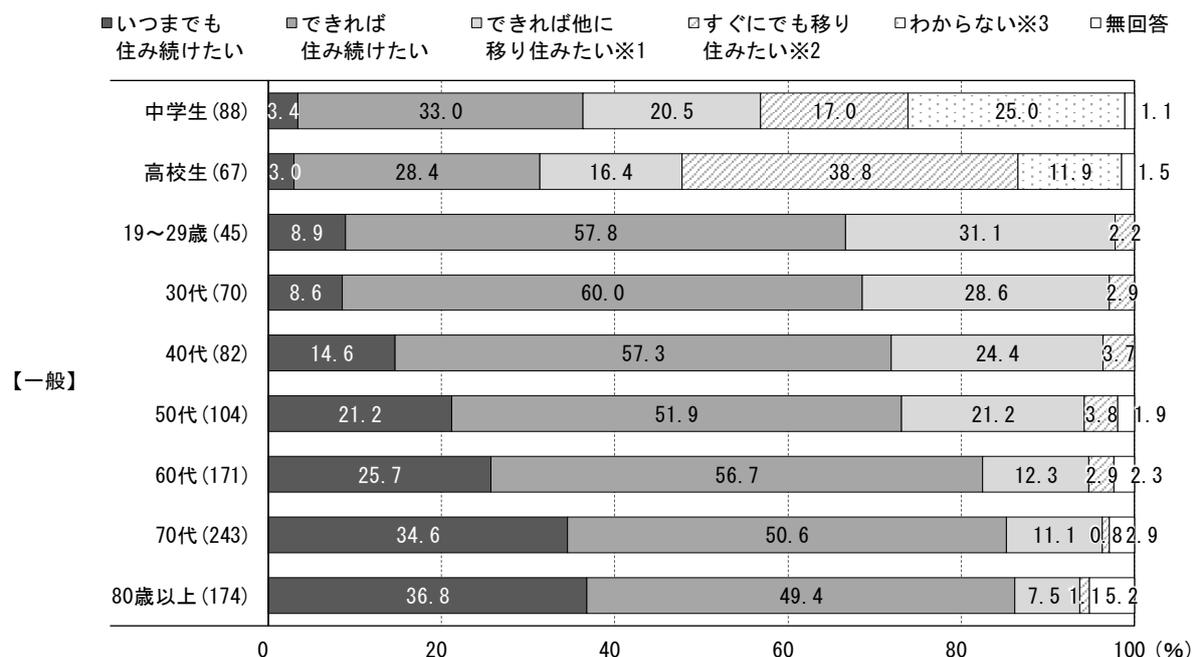
(注) 1. 複数回答の質問のため、各回答の割合の合計が100%を超える。

2. ※は、中高生調査では「地域のつながり」。

③安芸太田町に住み続けたいと思うかについて

上記①とは対照的に、若い世代ほど「他に移り住みたい」「できれば他に移り住みたい」「すぐにでも移り住みたい」の合計)の割合が高くなっています。

図表Ⅲ－１３ 安芸太田町に住み続けたいと思うかについて



(注) 1. ※1は、中高生調査では「できれば住み続けたくない」。

2. ※2は、中高生調査では「住み続けようとは思わない」。

3. ※3は、中高生調査のみの項目。

④他に移りたい理由

すべての年代で「交通や買い物が不便だから」が最も高くなっています。若い世代では、次いで「働く場所や仕事がないから」が高くなっています。

図表Ⅲ－１４ 他に移りたい理由

	中学生	高校生	一般							
			19～29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	
回答数	33	37	15	22	23	26	26	29	15	
回答割合	交通や買い物が不便だから	30.7	40.3	24.4	20.0	22.0	14.4	12.9	8.6	6.3
	地域のしきたりやつきあいが多から※1	4.5	4.5	8.9	7.1	11.0	12.5	6.4	3.3	1.7
	よりよい生活環境を求めて※2	-	-	11.1	5.7	4.9	11.5	4.7	3.3	1.1
	情報通信環境が整っていないから※3	2.3	9.0	-	-	-	-	-	-	-
	医療や介護サービスに不安があるから※4	6.8	10.4	6.7	7.1	3.7	5.8	4.7	4.9	2.9
	働く場所や仕事がないから	23.9	35.8	17.8	11.4	6.1	11.5	1.8	1.2	0.0
	災害や安全面の不安があるから	9.1	4.5	0.0	1.4	7.3	2.9	5.3	4.9	4.0
	家の老朽化や住宅がないから※5	4.5	6.0	4.4	7.1	7.3	7.7	1.2	0.8	1.1
	よりよい子育てや教育環境を求めて※6	4.5	1.5	4.4	11.4	7.3	1.9	0.0	0.4	0.0
	その他	2.3	13.4	6.7	5.7	4.9	1.9	1.2	0.4	2.3
	無回答	1.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.4	0.0

- (注) 1. ※1は、中高生調査では「地域のつきあいや行事が多いから」。
 2. ※2は、一般住民調査のみの項目。
 3. ※3は、中高生調査のみの項目。
 4. ※4は、中高生調査では「病院や福祉施設に不安があるから」。
 5. ※5は、中高生調査では「家が古いから」。
 6. ※6は、中高生調査では「子育てや学校に不安があるから」。

3. アンケート調査結果のまとめ

若い世代の仕事に関連する理由（就職、転勤、転業・転職）による、広島市との間での単身による移動が多いことを確認できました。

転出入者や住民は、本町の「自然環境」や「景観」を高く評価しています。

一方で、「買い物や交通といった日常生活の利便性の低さ」や「働く場所や仕事の不足」に対して不満を持っています。

若い世代では、本町に対して「誇り、愛着、魅力を強く感じている」ものの、上記の不満点を主な理由として、定住の意向が低いことがわかりました。特に、中高生は、町外への移住の意向が高いことがわかりました。

本町の人口維持のための取り組みを検討するにあたっては、強みである「自然環境」や「景観」を保全・維持し、弱みである「日常生活の利便性の低さ」や「働く場所や仕事の不足」を改善することによって、転出者を減らすと同時に移住・定住者を増やすことが重要だと考えられます。とりわけ、人口の自然増減にも好影響をもたらす、若い世代の希望を汲み取ることが必要だと考えられます。

IV 人口の将来展望

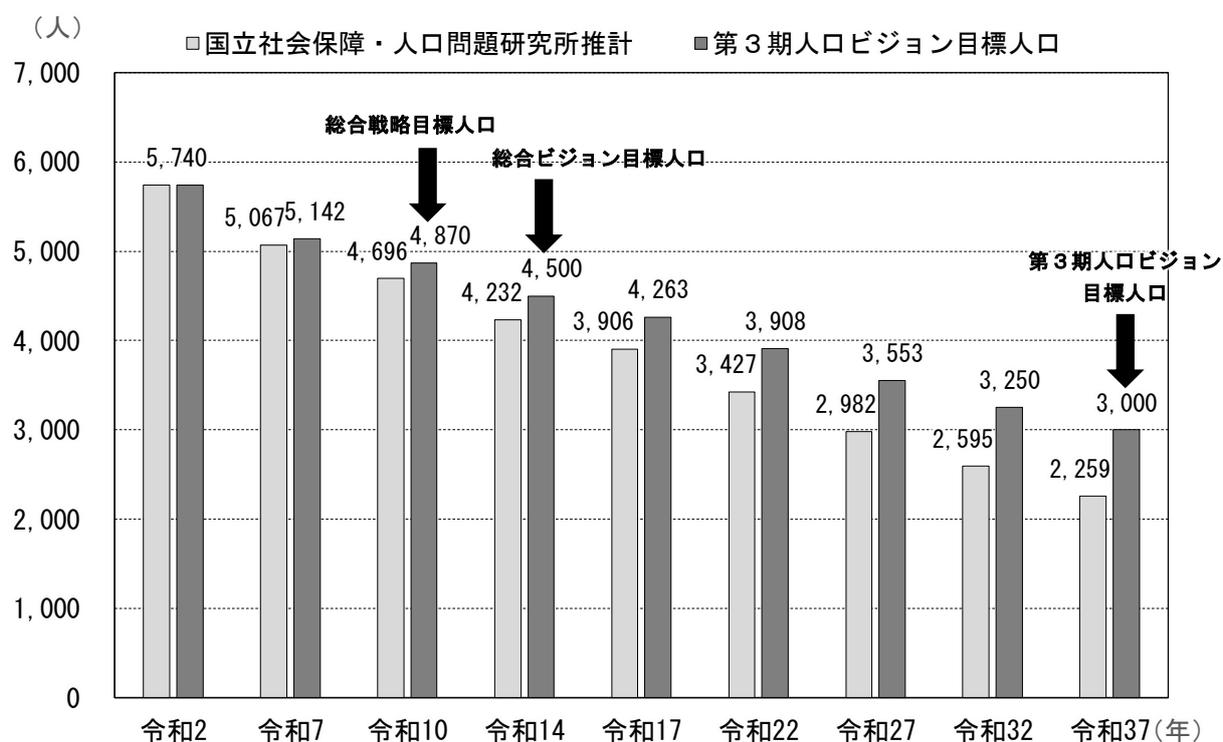
本町の人口の将来を展望するうえで、近年の人口動態をみると、社会動態・自然動態ともに減少は続いています。平成 27 (2015) 年においては過去最小値の 10 人減少という結果も出ていますが、直近の転出超過数について平成 30 (2018) 年は 85 人減少、令和元 (2019) 年は 14 人減少となりました。

こうした傾向を踏まえ、実現性の高い、将来人口推計のパターン③社会増減均衡を本町の将来人口の基本として、国立社会保障・人口問題研究所推計 (パターン①) の将来見通しから改善を図ることをめざします。

そのうえで、社会増減の均衡を実現するうえで、40 歳代までの若年層における転出抑制、転入促進を重視した対策を講じ、本町の総合戦略、総合ビジョンの各目標年次における目標人口を以下のように設定し、本人口ビジョンでは、令和 37 (2055) 年に人口 3,000 人を維持することをめざします。

なお、若年層の転出入傾向の改善を図ることは、生産年齢人口の維持や出生数の増加につながり、将来人口推計パターン③で示した推計結果を上回る将来人口の達成が期待されます。これにより、本町の持続可能性の向上と次世代における地域の活性化の実現をめざします。

図表Ⅳ－１ 本人口ビジョンにおける目標人口



図表Ⅳ－２ 各計画等の目標人口

計画等	目標年次	目標人口
第3期まち・ひと・しごと総合戦略	令和10年 (2028年)	4,870人
総合ビジョン	令和14年 (2032年)	4,500人
第3期人口ビジョン	令和37年 (2055年)	3,000人

本人口ビジョンの目標人口の達成に向け、本町では、総合ビジョンにおいて「人口減少の抑制（社会増をめざす）」を重点方針に掲げ、以下の施策を実施していきます。

こうした人口減に対する取組を継続することにより、令和37（2055）年に3,000人の目標人口の達成をめざします。

図表Ⅳ－３ 総合ビジョン重点方針①「人口減少の抑制（社会増をめざす）」の関連施策

施策1	住環境整備による暮らしやすさの向上
施策2	新生「道の駅 来夢とごうち」を核とした観光まちづくりの推進
施策3	あんしん・子育てPark あきおおた ^{※8} の実現
施策4	生活サポートの仕組みづくりによるコミュニティの維持
施策5	太田川の自然と調和した快適な環境づくり